



## “ハ長調の世界” — ハ長調の名曲を探る



### プログラム

“調性”を特集する長調のシリーズ、第5回目の今日はハ長調で書かれた名曲をお送りします。

モーツァルトのピアノ協奏曲第25番は1784年の第14番から集中的に作曲された一連の協奏曲群の最後を飾る1786年30歳の時の作品で、作曲者のピアノ協奏曲の中でも最もスケールが大きく、輝かしさを持った名作です。トッカータは1833年の作で、シューマンには珍しいの高度な技巧を必要とするように書かれた作品で、華やかさと緻密な作曲技法に魅了される名曲です。ベートーヴェンの「トリプル・コンチェルト」は、「英雄」や「熱情」とほぼ同時期に書かれた作品で、これらの傑作に比べるとそれほど高い評価を得ているとは言えませんが、軽やかなリズムと大らかな歌を持っており、充実した書法で書かれた名曲です。チャイコフスキーの弦楽セレナードはモーツァルトの敬愛の念から生まれたと言われる1880年頃の作品で、ロシア特有の美しい哀愁、メランコリックな情感、民謡調のリズム、格調の高い響きなど、豊かな楽想に満ち溢れた珠玉の名作。ショスタコーヴィチの交響曲第7番は第二次世界大戦下の1941年、ナチス・ドイツに包囲されたレニングラード（現サンクト・ペテルブルク）で作曲された作品で、戦争への悲劇的な叫びを思わせる第1楽章から祖国への愛、勝利のフィナーレまで、圧倒的な管弦楽に彩られた傑作です。第1楽章中間部で同じリズムと旋律がくり返されながらオーケストラが次第に高揚して行く様は、ラヴェルの「ボレロ」と同じ手法（1990年にアーノルド・シュワルツェネッガーが出演したアリナミンVのCMで歌詞が付けられ、「チチンブイブイの唄」として話題となりました）。今日は昨年12月に88歳で亡くなったドイツの指揮者クルト・マズア（1927.7.18～2015.12.19）の演奏でこの名匠を偲びたいと思います（中川）

\*\*\*\*\*

#### ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト（1756～1791）： ピアノ協奏曲第25番ハ長調K.503～抜粋

内田光子（ピアノ）

リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
（2006.1.27 サルツブルク祝祭大劇場でのLive）

#### ロベルト・シューマン（1810～1856）： トッカータハ長調op.7

エミール・ギレリス（ピアノ）

（1976.8.9 サルツブルクでのLive）

#### ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）：

#### ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲ハ長調op.56～抜粋

ボサール・トリオ

（メナヘム・プレスラー（ピアノ）/イダ・カヴァフィアン（ヴァイオリン）/ピーター・ワイリー（チェロ）  
マルチエツロ・ヴィオットティ指揮サールブリュッケン放送交響楽団  
（1994.1.28 サールブリュッケン、コンGRESハレでのLive）

\*\*\* 休憩 \*\*\*

#### ピョートル・チャイコフスキー（1840～1893）：

#### 弦楽セレナードハ長調op.48～第1楽章、第3楽章から、第4楽章から

小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団

（1990.4.8 水戸芸術館でのLive）

#### ドミトリ・ショスタコーヴィチ（1906～1975）：

#### 交響曲第7番ハ長調op.60“レニングラード”～第1楽章から、第3楽章から、第4楽章から

クルト・マズア指揮フランス国立管弦楽団

（2006.5.18 パリ、シャンゼリゼ劇場でのLive）